

平成 27 年 3 月 26 日

各 位

会 社 名 アキュセラ・インク (Acucela Inc.)
代 表 者 名 最高経営責任者兼社長 プライアン・オカラガン
(コード番号：4589 東証マザーズ)
問 合 せ 先 アキュセラ・インク (Acucela Inc.)
日本事務所 ディレクター 須賀川 朋美
(TEL：03-5789-5872 (代表))
代 理 人 ベーカー&マッケンジー法律事務所 (外国法共同事業)
弁護士 高橋 謙 (TEL：03-6271-9900)

2014年度通期業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

平成26年11月12日に公表した2014年12月期（2014年1月1日～2014年12月31日）の業績予想値と実績値の間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

2014年12月期通期業績予想値と実績値の差異（2014年1月1日～2014年12月31日）

（単位：1株当たり金額を除き、千米ドル（千円））

	提携からの収益 ^(注1)	営業利益 (損失)	税引前当期 純利益	当期純利益 (損失)	1株当たり 当期純利益 (損失) ^(注2)
前回発表予想 (A)	34,739 (4,187,786)	693 (83,541)	250 (30,138)	-1,997 (-240,738)	-0.06 (-7)
実績値 (B)	35,396 (4,266,988)	-188 (-22,663)	353 (42,554)	-2,006 (-241,823)	-0.06 (-7)
増減額 (B-A)	657 (79,202)	-881 (-106,204)	103 (12,416)	-9 (-1,085)	0 (0)
増減率 (%)	2%	-	41%	-	-
(ご参考) 2013年12月期実績 (累計)	52,947 (6,382,761)	6,994 (843,127)	7,182 (865,790)	4,299 (518,244)	0.10 (12)

(注1) 当該表記は、2013年12月期決算短信における「関連当事者との提携からの収益」という表記から変更されております。かかる変更は、新規株式公開に伴い大塚製薬の持分が減少し、2014年12月31日現在10%未満であったため、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則における「関連当事者」でなくなったことによります。

(注2) 前回予想における1株当たり当期純利益（損失）は、予想される加重平均株式数32,729,000株を使用し計算されたのに対し、実績値の計算には32,869,000株が使用されました。

(注 3) 括弧内に表示されている金額(千円、ただし1株当たり金額に関しては、円)は、便宜上、2014年12月30日現在の株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値に基づき1米ドル=120.55円で換算された金額であります。

差異の理由

提携からの収益 2014年の提携からの収益は、予想値を0.7百万米ドル(7,920万円)上回りました。これはエミクススタト塩酸塩プログラムに基づく臨床試験活動に関連した活動が予想を上回ったことによるものです。尚、収益の増加は、エミクススタト塩酸塩プログラムに関連する費用の変動とほぼ相関性があるため、営業利益に対しては大きな影響を及ぼしません。

営業利益(損失) 営業利益(損失)の変動は、予想値を0.9百万米ドル(10,620万円)下回りました。前回発表の予想では営業利益(損失)に0.9百万米ドル(10,620万円)受取利息が含まれておりました。現在、受取利息は税引前当期純利益に含まれています。

税引前当期純利益 税引前当期純利益は、予想値を0.1百万米ドル(1,240万円)上回りました。実際の受取利息が、予想値である0.9百万米ドル(10,620万円)を0.4百万米ドル(4,790万円)下回り差額の0.5百万米ドル(6,260万円)が生じました。一方で、支払利息が予想を0.4百万米ドル(4,790万円)下回ったことによりほぼ同額の0.5百万米ドル(6,260万円)の差額が生じ、結果として受取利息と支払利息の予想に対する差額が相殺されました。その他0.1百万米ドル(1,240万円)は、その他費用の総額が予想値をわずかに下回ったことによります。

当期純利益(損失)および1株当たり当期純利益(損失) 予想値と実績値に重要な差異はありませんでした。

(注)業績は予想として記載された値から著しくまたは不利に相違する場合があります。当社の業績を著しく相違させる可能性のある要因には、当社の提携パートナーが当社の製品候補の共同開発を終了するリスク、臨床試験に遅れが生じるリスク、競争の激しい眼科医薬品市場における新たな展開により当社の臨床試験計画に変更が生じるもしくは当社の製品候補の潜在的利益が限定されるリスク、当社がブライアン・オカラガン氏を含む主要な経営陣および科学者を維持し意欲を引き出すことができないリスク、2014年後半に当社が開始した戦略的事業計画を遂行できないリスク、ならびに治療薬の安全性および有効性を証明する探索および開発過程に内在するその他のリスクおよび不確実性が含まれますが、これらに限定されません。当社は本リリース後の新たな情報、事象および状況または予想された事象の発生を反映するために、本資料の将来に関する記述を更新する義務を負うものではありません。リスクの詳細およびその他のリスク要因については、当社による米国証券取引委員会(以下「SEC」といいます。)への提出書類をご参照ください。SECへの提出書類は当社のウェブサイト(<http://ir.acucela.com/>)およびSECのウェブサイト(<http://www.sec.gov>)より入手可能です。

以上

アキュセラ・インク (Acucela Inc.) について

アキュセラ・インク(日本語サイト:www.acucela.jp)は、世界中で数百万人が罹患している視力を脅かす眼疾患の進行を遅らせることにより治療を目指す革新的な治療薬の探索および開発に取り組んでいる、臨床開発段階のバイオ製薬企業です。当社と大塚製薬株式会社は、現在、当社が独自に創製した視覚サイクルモジュレーションに基づく地図状萎縮を伴う加齢黄斑変性の治療薬「エミクススタト塩酸塩」および高眼圧症または開放隅角緑内障に対する治療薬「OPA-6566」の共同開発を行っています。

免責事項

本資料は関係情報の開示のみを目的として作成されたものであり、有価証券の取得または売付けの勧誘または申込みを構成するものではありません。本資料は、正確性を期すべく慎重に作成されていますが、完全性を保証するものではありません。また本資料の作成にあたり、当社に入手可能な第三者情報に依拠しておりますが、かかる第三者情報の実際の正確性および完全性について、当社が表明・保証するものではありません。当社は、本資料の記述に依拠したことにより生じる損害について一切の責任を負いません。

また本資料の情報は、事前の通知なく変更される可能性があります。

本資料には将来予想に関する見通し情報が含まれます。これらの記述は、現在の見込、予測およびリスクを伴う想定（一般的な経済状況および業界または市場の状況を含みますがこれらに限定されません）に基づいており、実際の業績とは大きく異なる可能性があります。今後、新たな情報、将来の事象の発生またはその他いかなる理由があっても、当社は本資料の将来に関する記述を更新または修正する義務を負うものではありません。